



## 創造的休暇…読書のススメ

最近のニュースや新聞記事は当然のことながらコロナウイルスに関するものが多いのですが、感染された方、流通に携わる方、そして最前線で戦う医療従事者の方までが差別を受けたり、偏見にさらされたりするということを聞きます。一部の心ない人の行いとはいえ、このような事態だからこそ、人と人の距離は離れても心はつながっていなければいけないのにと悲しい気分になります。

斎藤孝氏は『読書力』で、読書は自己形成の最良の方法であり、幅広い読書こそが物事を相対的にとらえ総合的かつ冷静な判断ができる知性・教養を生むと書いています。未知のものに対する不安から、差別や偏見に逃げるのではなく、冷静な判断ができるようになりたいものです。今こそ、差別や偏見というウイルスに感染しないクリアで強靱な理性が必要だといえるでしょう。

また、この世界的な感染はグローバル化のなせるわざでもあります。皮肉なことに国境をたやすく越えたウイルスが、国と国、人と人を分断するという結果を生み、日本社会の様々な問題も浮き彫りとなりました。ただ、このような政治、社会を放置してしまった原因の一端は自分にもあると考えると、私たちはもっと社会の問題に目を向けなければいけない、もっと賢明にならなければならないと思います。

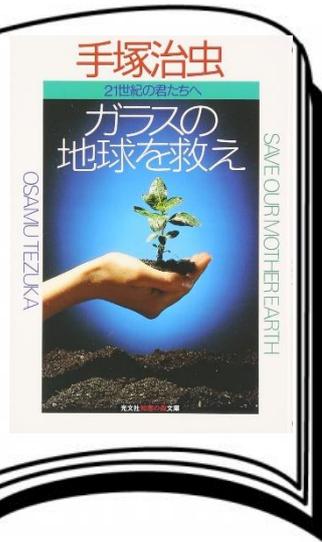
さて、今回のテーマは「読書」です。この機会に文学的な作品も読んでほしいのですが、特に皆さんの進路について考えるヒントになる本、将来の大学での学びを垣間見ることができる本、更に社会の問題についてじっくりと考えることができる本を選んでみました。

### 【全員にぜひ読んでほしい5冊】

※『書名』作者名(出版社名)

『ガラスの地球を救え 二十一世紀の君たちへ』

手塚治虫  
(知恵の森文庫)



### 地球環境問題について考える

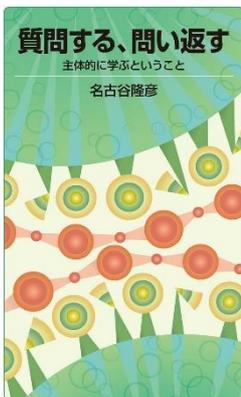
グレタ・トゥーンベリさんのストライキと国連の気候行動サミットでの激しい演説は、地球環境問題は人類が取り組むべき最重要課題であることを私たちに最確認させてくれました。

みなさんにはなじみが薄いかもしれませんが、1989年他界した漫画の神様、手塚治虫氏が「なんとしてでも、地球を死の惑星にはしたくない。未来に向かって、地球上のすべての生物との共存をめざし、むしろこれから、人類のほんとうの“あけぼの”なのかもしれないとも思うのです」との思いを綴ったのがこの本です。幼少の思い出から、自らのマンガ、そして未来の子供たちへの思いまで、小学生高学年からでも読める平易な文章で書かれています。手塚漫画とともに読んでみてください。

『質問する、問い返す』  
主体的に学ぶということ  
名古屋隆彦

『質問する、問い返す』

名古屋隆彦  
(岩波新書)



### 主体的な学びを身につけるために

一時「進化するAIが人間の職業を奪う」というショッキングな話題が世間を賑わせました。では、AIにはない人間だけが持つ能力とは何でしょうか。それは、「正解のない問い」を考え続け、対話によってその答えを見出そうとする力ではないかと思います。

この本は、その「力」を育てるための、教育現場での取り組みや哲学カフェを紹介しています。もちろん、基礎的な知識がなければ深い思考はできませんが、何も考えず知識だけを溜め込んでも、その知識は無用の長物となります。今こそ、一人一人の「学び」の姿勢を問い直すために読んでみてください。

公式サイト

[https://www.13hw.com/special/special03\\_08.html](https://www.13hw.com/special/special03_08.html)

スマホはこちら

<https://www.13hw.com/home/index.html>



## 職業について考えよう

### 『新 13歳のハローワーク』村上龍 (幻冬舎)

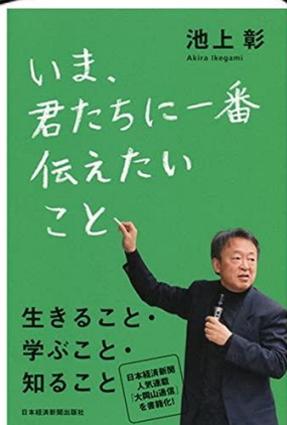
無限の可能性を持つ全ての13歳に贈る仕事の大本。好きな教科の扉をあけると、胸がときめく職業図鑑が広がります。

本の価格がやや高めですので、この本から飛び出したサイトのアドレスを左に記しています。職業紹介だけでなく、仕事・将来に関する疑問・質問に答えるフォーラム。著名人・働く人へのインタビュー、さまざまな特集記事などもありますので、自分の将来を考えるヒントにしてください。



『いま、君たちに一番伝えたいこと』

池上彰 (日本経済新聞出版社)



## 私たちはどう生きるべきか

わかりやすいニュース解説で有名な池上彰氏による東京工業大学での講義をまとめたものです。日々のニュースを伝えながら、学ぶとはどういうことか、世の中の見方や生き方について先輩としてメッセージを贈りたいとの池上氏の思いがこもっています。

歴史に学ぶことの重要性、今の世界情勢、国と国との関係、政治、教育、この一冊に私たちが生きていくうえで知るべき情報、考えるべきこと、作りあげてゆくべき未来の姿がぎっしりと詰まっています。

## 真の豊かさとは

筆者の西ドイツでの在住経験をもとに西ドイツと日本を比較し、「真の豊かさ」を実現する方法を考えた本です。初版は1989年、なんと30年以上も前の本であるにも関わらず、ここに書かれている日本の状況が今とほとんど変わっていないことに驚きを禁じえません。それは、「モノとカネがあふれる世界一の金持ち国・日本、だが一方では、環境破壊、過労死、受験競争、老後の不安など深刻な現象にこと欠かず、国民にはゆとりも豊かさの実感もない。」という日本の姿。日本は「世界一の金持ち国」ではなくなりましたが、抱えている問題は解決していないどころか、格差が進み、より深刻になったよう思えます。

「二 西ドイツから日本をみる」のp.28~31「問題意識が豊かな学生たち」の部分は全員に読んでほしいと思います。「豊かさとは創造的で自由な生き方ができることであり、それを最大限に可能にする政治、社会」と捉え、問題意識が高く政治や社会運動の中心として活躍する西ドイツの学生の姿こそが、あるべき姿ではないでしょうか。

暉峻淑子著  
豊かさとは何か



岩波新書  
85

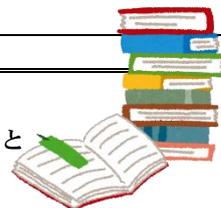
『「豊かさ」とは何か』

暉峻淑子  
(岩波新書)

【読書する習慣がないので同じテーマで1冊読み切るのはつらい、自分がどんな分野に興味があるかわからない、という人に】

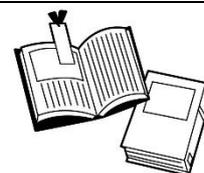
『中学生からの大学講義』（ちくまプリマー新書）

	書名	著者名 テーマ(目次より)
1	何のために学ぶのか …大事なものは知識じゃない。正解のない問いを、考え続けるための知恵である	外山滋比古 知ること、考えること 前田英樹 独学する心 今福龍太 自分の殻を破る…世界に向けて自己を開放すること 茂木健一郎 脳の上手な使い方 本川達雄 生物学を学ぶ意味 小林康夫 学ぶことの根拠 鷺田清一 「賢くある」ということ
2	考える方法 …“わかったつもり”とサヨナラしよう！	永井均 〈私〉が存在することの意味 池内了 それは、本当に「科学」なの？ 菅啓次郎 アメリカ・インディアンは何を考えてきたか？ 萱野稔人 なぜ、人を殺してはいけないのか？ 上野千鶴子 ジェンダー研究のすすめ 若林幹夫 社会とは何だろう…入門一步前の社会学 古井由吉 言葉について
3	科学は未来をひらく …素朴な疑問の探求から、最先端の研究まで！	村上陽一郎 科学の二つの顔 中村桂子 私的ななかにある 38 億年の歴史…生命論的世界観で考える 佐藤勝彦 宇宙はどのように生まれたか…現代物理学が迫るその誕生の謎 高数縁 宇宙から観る熱帯の雨…衛星観測のひもとくもの 西成活裕 社会の役に立つ数理科学 長谷川真理子 ヒトはなぜヒトになったか 藤田紘一郎 「共存の意味論」きれいな社会の落とし穴…7トピ-からガンまで 福岡伸一 生命を考えるキーワード それは”動的平衡”
4	揺らぐ世界 …宗教、人種、格差…… 争いはなぜ続くのたろう？	立花隆 ヒロシマ・ナガサキ・アウシュビッツ・大震災 岡真理 “ナクバ”から 60 年…人権の彼岸を生きるパ・リソ人たち 橋爪大三郎 世界がわかる宗教社会学 森達也 世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい 藤原帰一 民主化とピープルパワー…フィリピンからエジプトまで 川田順造 人類学者として、三・一一後の世界を考える…異文化から学ぶもの 伊豫谷登士翁 グローバルに考えるということ
5	生き抜く力を身につける …もがき、考えたことが未来を決める！	大澤真幸 自由の条件 北田暁大 いま君たちは世界とどうつながっているか 多木浩二 キャプテン・クックの航跡 宮沢章夫 地図の魅力とその見方 阿形清和 イモリやプラナリアの逞しさに学ぶ 鶴飼哲 〈若さの歴史〉を考える 西谷修 私たちはどこにいるのか？…哲学入門



『続 中学生からの大学講義』（ちくまプリマー新書）

	書名	著者名 テーマ(目次より)
1	学ぶということ …受験突破だけが目標じゃない。学び、考え続ければ鉄の扉が開くこともある。	内田樹 生きる力を高める 岩井克人 おカネとコトバと人間社会 斎藤環 つながることと認められること 湯浅誠 人の力を引き出す 美馬達哉 リスクで物事を考える 鹿島茂 考える方法 池上彰 学び続ける原動力
2	歴史の読み方 …人類の長い歩みには、「これから」を学ぶヒントがいっぱい詰まっている。	野家啓一 歴史と記憶…大震災後を生きる 長谷部恭男 憲法とは何か 金子勝 答えはひとつしかないのか…見方を変えれば本当のことが見えてくる 白井聡 「戦後」とはどんな時代だったのか 田中優子 グローバリゼーションの中の江戸時代 福永憲彦 歴史の見方・考え方…「産業革命」を通して学んでみよう 福嶋亮大 日本文化の像を描く 柄谷行人 交換と社会史
3	創造するということ …新しい価値観を創る力を身につけて、自由な発想で一步を踏み出そう。	宇野重規 新しい民主主義をつくろう 東浩紀 人文知と大学 - ゲンロンカフェ開設物語 原研哉 日本のデザイン、その成り立ちと未来 堀江敏幸 あとからわかること 稲葉振一郎 これからのロボット倫理学 柴田元幸 翻訳とは何か 中島義道 哲学とのつきあい方





※「中学生からの大学講義」は甚にあふれる「どうすれば大学に入れるか」のガイドではなく「大学で何を学べるのか」をテーマに、知の最前線で活躍する先生方の「学問」を紹介する講義を本に編んだものです。各講義はコンパクトで、わかりやすい上に、大変示唆に富み、知的好奇心をかきたてるものとなっています。本シリーズの各巻はテーマ別の構成になっています。これを通して読めば、「学問の今」を知ることができるでしょうし、同時に、正解のない問いに直面した時こそ必要な“考える力”を育むヒントにもなるでしょう。

【ジャンルごとのおすすめ 10 冊】

…1年生には岩波ジュニア新書、ちくまプリマ新書が読みやすいと思います。



人文・社会	国際	法・経済
<ul style="list-style-type: none"> <li>★『こころの処方箋』 河合隼雄 (新潮文庫)</li> <li>★『豊かさの精神病理』 大平健 (岩波新書)</li> <li>★『14歳の君へ どう考えどう生きるか』池田晶子 (毎日新聞社)</li> <li>★『〈よのなか〉を変える哲学の授業』小川仁志 (イースト新書)</li> <li>★『夜と霧』 V・E・フランク (みすず書房)</li> <li>★『本は、これから』 池澤夏樹編 (岩波新書)</li> <li>★『男と女 変わる力学』 鹿嶋敬 (岩波新書)</li> <li>★『その情報はどこから? ネット時代の情報選別力』 猪飼千香 (ちくまプリマ新書)</li> <li>★『自分と未来のつくり方 情報産業社会を生きる』 石田英敬 (岩波ジュニア新書)</li> <li>★『本質をつかむ聞く力 ニュースの現場から』松原耕二 (ちくまプリマ新書)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★『国際感覚ってなんだろう』 渡辺淳 (岩波ジュニア新書)</li> <li>★『異文化理解』 青木保 (岩波新書)</li> <li>★『市民と援助』 松井やより (岩波新書)</li> <li>★『もの食う人々』 辺見庸 (角川文庫)</li> <li>★『めざせ世界のフィールドを』 小沼廣幸 (岩波ジュニア新書)</li> <li>★『みんな地球に生きるひと』 1~Part4 アグネ・チャン (岩波ジュニア新書)</li> <li>★『ぼくは110番で初任で、ちょっとブル』アレグイみかこ (新潮社)</li> <li>★『社会の真実の見つけ方』 堤未果 (岩波ジュニア新書)</li> <li>★『ホ! 貧困大国アメリカ』 堤未果 (岩波新書)</li> <li>★『ヨーロッパとイスラム 共生は可能か』内藤正典 (岩波新書)</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>★『憲法は難しくない』 池上彰 (ちくまプリマ新書)</li> <li>★『9条どうでしょう』 内田樹他 (ちくま文庫)</li> <li>★『結婚と家族』 福島瑞穂 (岩波新書)</li> <li>★『ぼくらの民主主義なんだぜ』 高橋源一郎 (朝日新書)</li> <li>★『女も男も生きやすい国、スウェーデン』三瓶恵子 (岩波ジュニア新書)</li> <li>★『経済ってそういうことだったのか会議』 竹中平蔵・佐藤雅彦 (日経ビジネス人文庫)</li> <li>★『市場って何だろう』 松井彰彦 (ちくまプリマ新書)</li> <li>★『共生の大地』 内橋克人 (岩波新書)</li> <li>★『格差社会』 橋本俊詔 (岩波新書)</li> <li>★『この世で一番大事な『カネ』の話』西原理恵子 (角川文庫)</li> </ul>
教育	医療・福祉	理系・環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>★『兎の目』 灰谷健次郎 (角川文庫)</li> <li>★『教育改革の幻想』 荻谷剛彦 (ちくま新書)</li> <li>★『22世紀を見る君たちへこれから生きるための「練習問題」』 平田オリザ (講談社現代新書)</li> <li>★『わかり合えないことから』 平田オリザ (講談社現代新書)</li> <li>★『シュタイナー教育を考える』 子安美知子 (朝日文庫)</li> <li>★『フィンランドの教育はなぜ世界一なのか』岩竹美加子 (岩波新書)</li> <li>★『子どもと学校』</li> <li>★『子どもの宇宙』 河合隼雄 (岩波新書)</li> <li>★『子どもと自然』 河合雅雄 (岩波新書)</li> <li>★『幼児教育を考える』 藤永保 (岩波新書)</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>★『ボランティア』 金子郁容 (岩波新書)</li> <li>★『世界の高齢者福祉』</li> <li>★『日本の高齢者福祉』 山井和則 (岩波新書)</li> <li>★『病院で死ぬということ』 山崎章郎 (文春文庫)</li> <li>★『看護 ヘルパースタッフの光景』 増田れい子 (岩波新書)</li> <li>★『「いのち」とは何か』 柳澤桂子 (講談社学術文庫)</li> <li>★『心の傷を癒すということ 大災害と心のケア』 安克昌 (作品社)</li> <li>★『今日すべきことを精一杯!』 日野原重明 (ポプラ新書)</li> <li>★『がんばらない』 鎌田實 (集英社文庫)</li> <li>★『国境なき医師が行く』 久留宮隆 (岩波ジュニア新書)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★『研究するって面白い! 科学者になった11人の物語』 伊藤由佳理編 (岩波ジュニア新書)</li> <li>★『科学の目・科学の心』 長谷川真理子 (岩波新書)</li> <li>★『マザーネーチャーズトーク』 立花隆 (新潮文庫)</li> <li>★『ゾウの時間ネズミの時間』 本川達雄 (中公新書)</li> <li>★『科学者が人間であること』 中村桂子 (岩波新書)</li> <li>★『疑似科学入門』 池内了 (岩波新書)</li> <li>★『科学の現在を問う』 村上陽一郎 (講談社学術文庫)</li> <li>★『沈黙の春』 レイチェル・カーソン (新潮文庫)</li> <li>★『生命観を問い直す』 森岡正博 (ちくま新書)</li> <li>★『地球をこわさない生き方の本』 樋田劬 (岩波ジュニア新書)</li> </ul>